

世界の果汁市場を圧迫するオレンジとリンゴの原料不足

[FreshPlaza 2024年10月25日](#)

ブラジル産オレンジとヨーロッパ産リンゴの生産が減少し世界の果汁市場は原料が逼迫

ヨーロッパの市場参加者は、リンゴとオレンジの果汁部門が迎える厳しい年に備えている。ブラジルの柑橘類栽培防衛財団(Fundecitrus)は、サンパウロ州とミナスジェライス州西南西部のオレンジ生産量が昨シーズンの3億722万箱から30%減少すると予想している。同時に、世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は、ヨーロッパのリンゴ生産量が11%減少して1,020万トンになると予測しており、主要なリンゴ果汁生産国であるポーランドでは20%の減少となる。

SIAL会議(10月にパリで開催された)では、来年の調達の高騰に焦点が当てられた。ヨーロッパのオレンジ果汁会社の中には、調達の問題により操業を停止しているところもある。ブラジルの加工業者は現在、オーストラリアや日本などの市場へのタンカーによる大規模出荷よりも、主要取引先への少量出荷を優先している。ヨーロッパ渡りブラジル産オレンジ果汁のエクスパナ社ベンチマークは7千ドル/トンで、前年比55%の高騰を記録し、小売消費に影響を与えている。

あり得る緩和戦略として議論されているのは、他の地域での生産を増やすことや、オレンジ果汁をマンダリン果汁に置き換えること等である。しかし、依然としてブラジルのオレンジ果汁の生産能力に並び立つものは無いというのがコンセンサスである。業界の回復は、短期的には依然として不確実である。リンゴ果汁市場は、特にポーランドの霜の影響等の独自の課題に直面している。現在の市場動向としては、加工業者による在庫の抱え込みや交渉の長期化、入手可能性に対する懸念などが見られる。それにもかかわらず、2025年産のリンゴの収穫により状況が改善するかも知れないという期待がある。一方、エクスパナ社の報告によれば、中国産の低酸度リンゴ果汁は、ヨーロッパ産果汁の2,200ユーロ/トンに対して2,100ユーロ/トンでEUに提供されている。

出典: [Mintel](#)

(関連記事) エジプト 柑橘類濃縮特区を承認し輸出を促進

[FreshPlaza 2024年10月24日](#)

エジプトはポートサイド市に1千万ドルの柑橘類濃縮特区を承認し輸出を促進

エジプト内閣は最近、柑橘類の濃縮物の生産に焦点を当てた経済特区をポートサイド市に設置することを承認した。工業地帯内の1万平方メートルに及ぶ「柑橘類濃縮物特区」は、100%国内産の原料の使用とすべての生産物の輸出を義務付けることにより、柑橘類産業を強化することを目的としている。

このゾーンは、投資・特区総局の監督下で運営され、国の安全基準と環境基準の遵守を確保する。1千万ドルが投資されるこのプロジェクトは、年間300人以上の雇用を創出し、初期段階で2,500トンの濃縮果汁を製造することとなっている。

出典: [Egypt Today](#)